

常連さんの横顔

石坂さん(70代男性)

「本は人生かな。ここは本も景色も読めるのがいい」



「ロケーションも良く、いい環境で本が読める。
ここは本も景色も読める」

まちライブラリーを見つけたときの印象だと石坂さん。

「時間があれば本を読んでいます」という無類の本好き。

町田市で生まれ育ち、長年、日本道路公団に勤務。

転勤族だったため日本全国へ。

その後、民間の店舗勤務を経て退職。

「60歳を過ぎ、ここまで生かしてくれたことに感謝。どこかの地域に恩返しをしたい」と、山梨、新潟、高知の候補地から高知を選んだ。

理由は「一番遠く、知り合いがいない方が面白いことができると思ったんです」。

東京と生活は2つになるけど…「切り詰めればなんとかなる」と決心！

奥様と二人で、いざ、高知県四万十市へ。

現在は88ヶ所参りのお遍路さんのお接待所を運営し、さらに「四万十古書街道」の活動も。

「古書を扱いながら地域おこしをやっています。人口1500人の村に年間100万人が訪れる古書の聖地、イギリスのヘイ・オン・ワイの四万十版を作るのが目標です」

子供の頃から本には自然と親しんでいた。

町田市立図書館に通い、家族のカードも使って借りていたという。

「私にとって本は人生かな。人生の縮図が本にはある」

1年のうち10カ月は高知、12・1月は東京という生活。

一昨年、帰京時に新しくできた南町田グランベリーパークに出かけ、

まちライブラリーに出合った。

実は東京では夫婦別居、各々のホームタウンである町田と品川で過ごす。

「これもいいですよ。好きな時に好きな料理を作ったりね」

四万十では、畑での野菜作りを楽しみ、体力維持のため歩くことも日課に。

最後に

「本に囲まれた生活が好きです。

2~3年で帰ってくる予定なので、ここでボランティアを。
力を貸せることがあればと思っています」と心強いお言葉！

まずは来冬、お持ちしています。

好きな作家&おすすめ本

以前は寺山修司が好きだった。今は時代物が面白い。

寺山修司の「競馬場で会おう」は、独特な感じがいい。頼山陽の「日本外史」もおすすめ。